

2号橋の橋脚も完成した。
高さ20Mのダイナミックなコンクリートの柱が空にそびえる。



コンクリート打込み作業（1号橋にて）

△現地ルボ△

海にかける橋

■姿をみせる 天草架橋

両岸から伸ばされていく橋梁が、三角の瀬戸の海上高くつなぎ合わされ、空間に見事な弧を描く瞬間こそ、架橋工事中の庄巻となるに違いない。

事実、一号橋の工費八億一千万円は、総工費の三十八%にのぼり、最も大きなウエイトを占めることとなる。橋の上部工まで完成するのは、供用開始ギリギリ四十一年九月の予定である。

一号橋を大矢野島へ渡り、取り付け道路の二号道路から十二、三糠にわたって大矢野島を横切る道路は、当初の計画では、飛岳を南へまいて、海岸沿いに登立へ走る予定であったが、設計変更して、島の北岸へ迂回することになる。三角西港の対岸ぞいに、大瀬戸、小瀬戸を見下し、拡がる有明海を望むのもまた、面白いかも知れない。

予定通り進行中△二号橋△

一号道路および一号橋の下部工事は、一応完成した。三角港背後の高台から、海岸方向へ迂回する一号道路、六百糠の砂利道は全工事を完了し、あとで料金徵収所になる建物も、いま現場事務所として使われている。下部工事の方も、工事関係者の主力がすでに引きあげ、人かけもまばらだ。

三角側の架橋地点に立つ。いかにも高い。対岸の大矢野側橋脚も工事を終えて、橋梁のかかる日を待ちうけている格好だ。

水面からの高さ四十二尺、長さ五百二尺、下曲弦連続トラス式としては、世界でもトップクラスの橋となるわけだが、

石伝いに松島町合津に至るわけだが、これは、国立公園特別風致指定地区、天草松島のまつただ中である。恐らく、訪れる人たちの目をうばう景観となることは間違いあるまい。また、それだけに、それが橋の型式決定にあたって、工事上の問題だけでなく、美観についても、かなり慎重に検討されたのである。

それでも、工事が予定ビッタリに進行しているのは、ほんとうによろこばしいことだ。それにしても、工事が予定ビッタリに進行しているのは、ほんとうによろこばしいことだ。安全帽の下の顔が、いかに若いことだ。安全帽の下の顔が、いかにも若々しいのだ。それと、働く人たちの数が意外に少ない。さすがに世界的水準の工事、建設関係での日本のトップレベルを集めた工事である。若々しい労働力と、大規模な機械力がフルに活動しているという感じだ。

完成へまっしぐら

協力は非常なもので、いかに天草の人たちが、この架橋に期待を寄せたかを物語っているのだが、こうした下準備が、事務所の努力と地元の協力で極めてスムーズに運んだことも、工事を予定通り進行させた要因になっているのだろう。

五号橋は、入札がずっと遅れたためにやっと工事にかかつたばかり。しかし、三号橋は、下部工事の最中である。永浦島よりの橋脚では、ちょうど潜水夫による作業が行なわれており、池島よりの現場は作業員がビッシン。やはり県民すべての期待に答えるために、「こんな立派な橋が出来ると、もういふことはありません。あと、ぜひ天草の道も立派にして頂けたらと思います。」地元の人の声だった。

三号橋は、架橋工事の問題点は、その大部分が海岸岩盤、飛び飛びの島の連絡の悪さ、水の不足などがある。これも急ピッチで追い付くだろう。

五号橋は、入札がずっと遅れたためにやっと工事にかかつたばかり。しかし、三号橋は、下部工事の最中である。永浦島よりの橋脚では、ちょうど潜水夫による作業が行なわれており、池島よりの現場は作業員がビッシン。やはり県民すべての期待に答えるために、「こんな立派な橋が出来ると、もういふことはありません。あと、ぜひ天草の道も立派にして頂けたらと思います。」地元の人の声だった。

二号橋は、橋長二百五十糠のランガートラス型式。このタイプでは日本一。岩盤の関係で、海中に橋脚二本を立て、中央部は上へ大きく弧を描いた鉄橋となる。ここから三、四、五号橋と、島々を飛び

(W)